

## ■ 書 評



精神科とは無縁と  
思っていたあなたが困ったときに  
精神科を味方につける  
ための本  
こころの病への  
適切な対応がわかる14の短編小説集

寺尾 岳 編  
井上幸紀, 寺尾 岳,  
松永寿人, 吉村玲児 著  
星和書店  
2020年1月 320頁  
本体価格 1,800円+税

ベテラン精神科医4名が、それぞれの経験症例に素晴らしい味付けを施して短編小説に仕上げたものである。この本を読んで、開高健のエッセイを思い出した。開高健はご存じのように名うての小説家でありエッセイストであるが、「磨きぬかれた短編の含む質と量とはめどない長大篇のそれと匹敵する」という一節を思い出した。このような症例集は今まであまりなかったのではないかと思われる。精神科に興味を持つ医学生、研修医や精神科に入局して日が浅い若手医師に是非とも読んでいただきたい本である。もちろん精神疾患に苦しんでおられる方ご自身やご家族の方にもおすすめの一冊である。うつ病、双極性障害、統合失調症、強迫性障害、認知症など罹病頻度の高い疾患を非常にわかりやすく、しかも興味深く描いている。読み物としても大変面白いものである。特に双極性障害の物語は興味深かった。疫学研究が進み双極性障害の有病率が以前より増加しており、自殺、焦燥、暴力、配偶者や家族との不和などの原因になっている場合が多い。ほとんどがう

つ病相のみで、漫然と抗うつ薬の投与が続けられ、薬剤抵抗性あるいは本人の性格の問題であるとして放置される場合が多かったようである。しかしながら疾患概念が定着して、炭酸リチウムを中心とした気分安定薬の投与で劇的に改善する症例もまれではなく双極性障害患者にとって大いに福音となっている。一方、患者本人の心構えや家族の対応など、さらに回復後のリハビリの重要性和社会復帰に至るプロセスまで描かれており、まさにタイトルにあるように「精神科を味方につける」書物と言えよう。

メンタルヘルスの重要性が叫ばれて久しいが、今年にはさらにコロナ禍が加わり、未曾有の高ストレス環境に晒されている。当然のことながらうつ病や神経症が増加するであろう。また手洗いや消毒の励行で強迫性障害が増えることも想像に難くない。日々の巣籠り、運動不足で高齢者の認知症も増加、増悪するであろう。統合失調症も非常に環境に影響を受けやすい疾患であるので増加するであろうと思われる。さらにコロナ脳炎や脳症も出現するかもしれない。本書に記載されている精神疾患すべてがポストコロナ時代に確実に増えると思われる。そのような意味においても本書の刊行は非常に時宜を得たものである。

編著者である大分大学の寺尾岳教授は、プロ級の絵画の腕前をお持ちで、最近では作陶にも興味を持たれ、大学の作業療法で絵画や陶芸を教えられると聞く。文章にも芸術の香りが漂い心地よい1冊に仕上がっている。

(木下利彦)